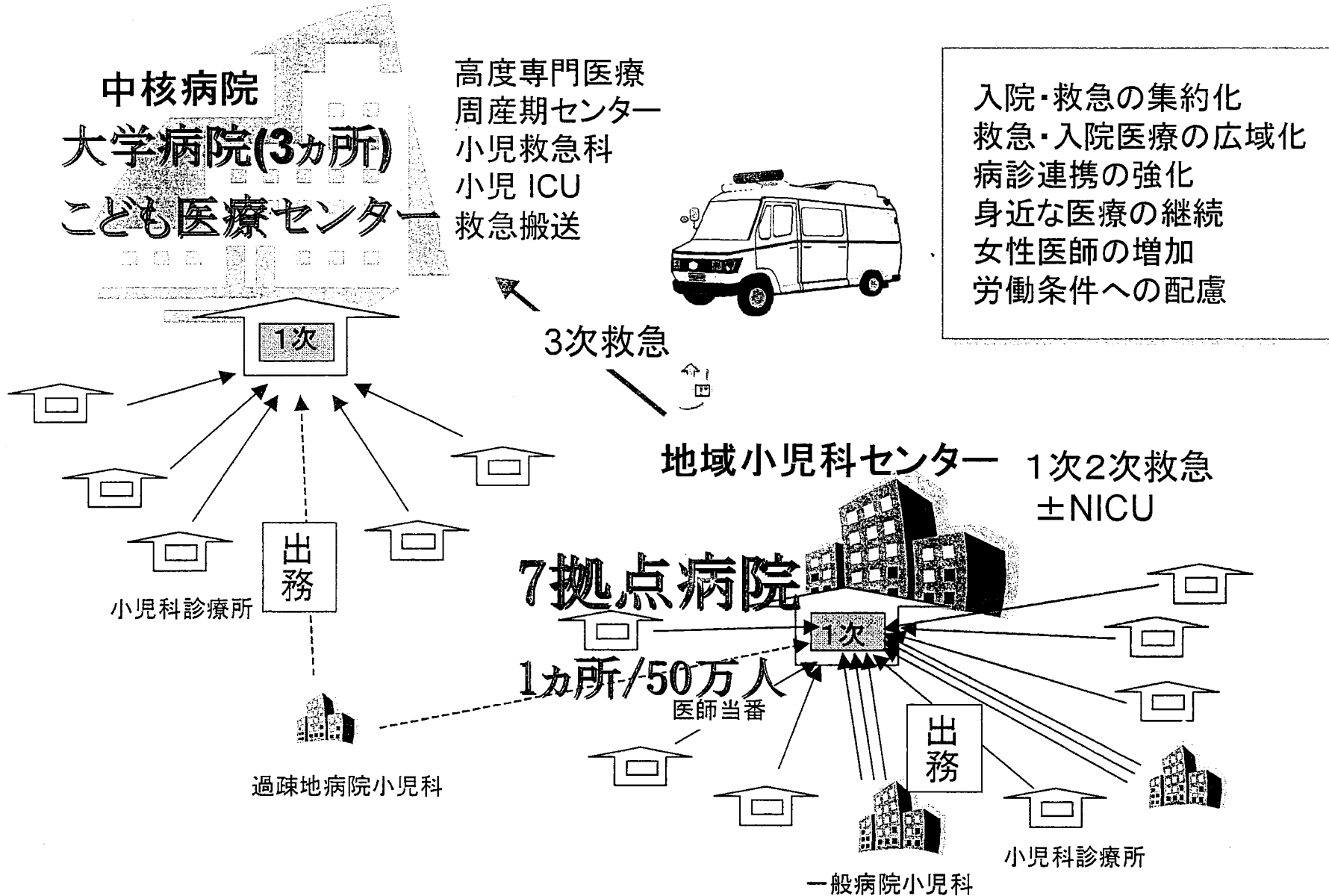


日本小児科学会 —わが国の小児医療・救急医療提供体制の改革に向けて—



## 拠点病院構想を推進できた要因

- 小児科医の育成を前面に出したこと。
- 拠点病院が24時間・365日稼働することを市民にアピールできる＝救急病院の明確化
- 唯一の夜間・休日センターの深夜帯が人手不足で行きづまったこと。
- 小児科医11～15名体制で病院の収益増が見込まれる＝藤沢市民病院の例。
- 小児科医の減少を背景に派遣大学の了解。
- 新規専門研修生を多数得たこと。

# 横浜市拠点病院で起こりつつあること

南部病院と労災病院において近隣の小児科医が当番で勤務(準夜帯)。

- 拠点病院医師と開業医との協働
- 開業医が二次・三次医療患者の診察が可能
- 拠点病院を核とした地域完結型医療体制の樹立

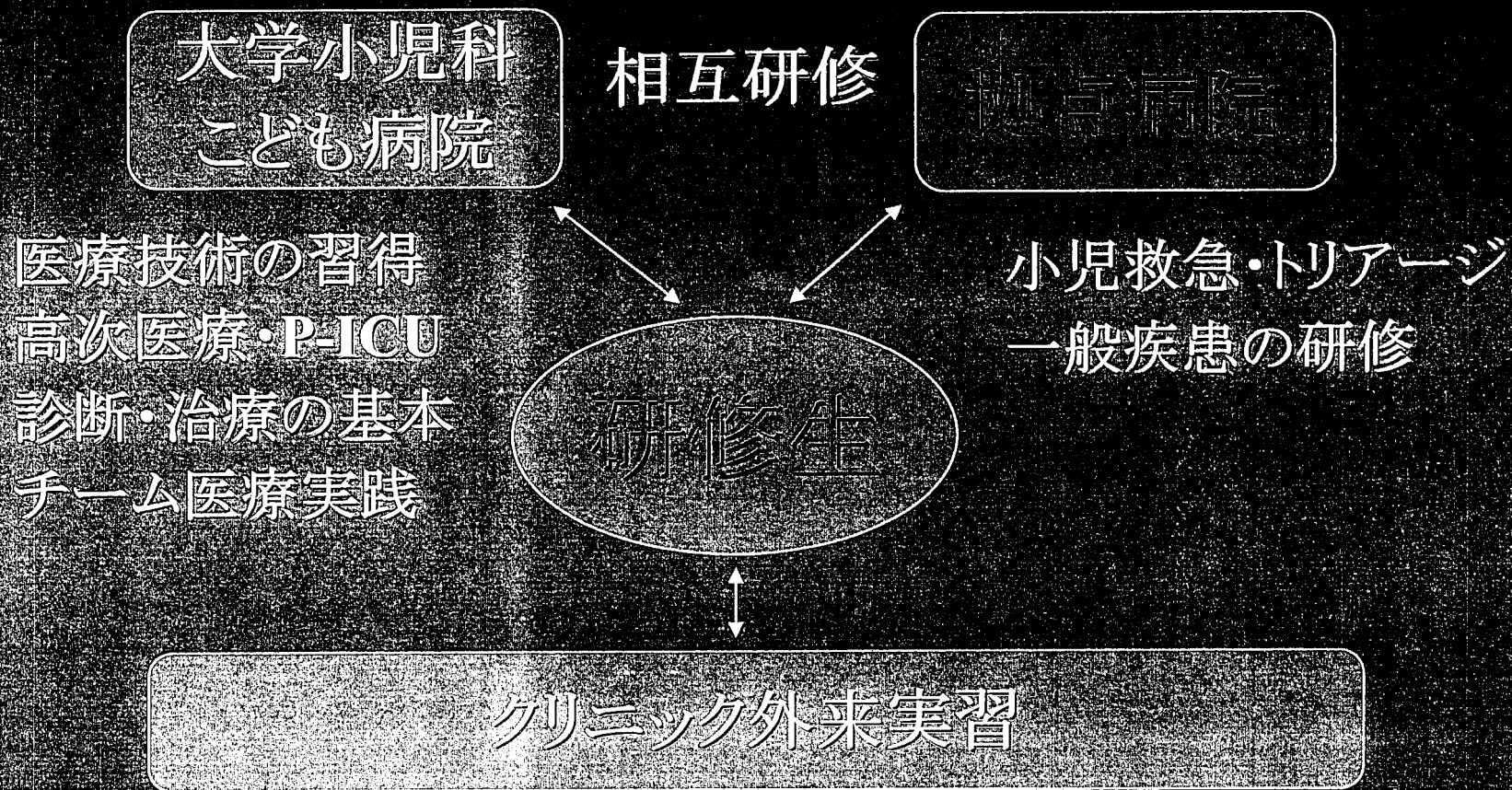
## ■ 研修医の間で「横浜研修システム」を評価

- 若い小児科医の横浜への集中化
- よい研修環境 → 次世代の研修医を呼び込む(良循環)

## ■ 横浜市拠点病院連絡協議会の設置

- 「巡回カンファレンス」の立ち上げ
- 研修医の質の向上・均一化
- 出身大学によらない小児医療の成立
- 一病院ではなく、地域全体で小児科医を育成

# 地域で専門研修医を育成



医療の原点：人と人＝総合医療・複眼視医療・成育医療・予防医学